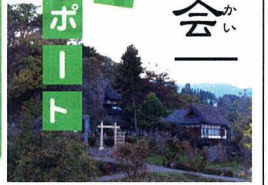


コスモス句会

こども記者のプチレポート



コスモスと同じ背丈を誇る詩人 紗希

どれも個性があり、いい句を作ってくれました。俳句の題材を拾ったりする中で、毎日同じようでも、移ろっていくのが分かると思えます。風が冬になってきたな、あの花何かなーというように、これからもふと思いついたら作ってほしいです。今日のように家族や友達とプチ句会をしてみるのも、新鮮で面白い楽しみ方になると思いますよ。

紗希

かきの色きつと夕日の落とし物

俳句は世界の共通語に驚きました。神野さんは「俳句のふるさと日本に生まれたみなさん、もつと俳句に親しみ、身近なもので作ってみてください」と言っていました。 愉井

愉井

月明りあびて秋の葉もえはじめ

句会をやってみると、自分が考えなかった見方や考え方が出てきて、新たにその句のよさやすさに気づくことができます。自分の句にアドバイスももらえます。 開人

開人

雨の中やさしく実る秋の柿

おもしろいのは、同じものでもそれぞれの感じ方が違うということ。俳句は、自然とふれあい自分と素直にむき合ってみんなで楽しめるすこいものです。 可恋

可恋

秋のくも鼻を光らせる大つぶの雨

句会では、学年に関係なく季語や自分で感じた言葉やひょう現、びょう写の句もあり感動しました。見る、選ぶ、発表するの三つが入り、とても良い経験でした。 優希

優希



みんな選 3番



みんな選 2番



みんな選 1番

枯れ葉むむ雨にぬれつつ山を見る

いつもはきれいな雨がともきれいでしんせんでした。俳句作りはもくもくとたんざくにむかうだけと思いましたが、歩いて書くとも楽しく感じました。 衛

衛

かきのえだのしたたるしづくに私の顔

吟行に行ってみると、ふだんは目にとまらないような事や、素通りしてしまう草や花も、まるで別のもののように、いつもとちがうような感じがしました。 理恩

理恩

まちなみがかすれて見える秋の雨

長楽寺に挨拶のことを詠んだ句碑がいつぱいありました。有名な俳人が詠んだ土地や風景を見て、俳句を作って、吟行の楽しさがわかりました。 航太郎

航太郎

雨の日にススキにしづくかがやいて

一番心に残ったのは吟行で、長楽寺など周辺を歩きました。紅葉していてもきれでした。カキやコスモス、秋明ギクなどもありました。 素絵

素絵

秋の雨もみじの葉っぱ落ちて行く

学校で1回、春を俳句にしたことがありました。句会をやってみて、同じ秋の季節のことでも、みんな書いていることがちがっていてもおもしろかったです。 正望

正望

かきのえだついたしづくに葉がうつる

「吟行」と聞いた時、お金をあずけたりする「銀行」を思い浮かべ、どうして俳句とかんけいあるのだろうとふしぎに思いました。前よりも俳句のことを知れてよかったです。 春奈

春奈

秋ぐみがくつつき実る赤々と

生きものや植物を近くでじっと見て、知らなかったこと、不思議だと思ったことをたくさん見つけられました。みんなの俳句の発想がすごかったです。 愛日

愛日



紗希さん選 3番



紗希さん選 2番



紗希さん選 1番

棚田から見る風景をわすれない

神野さんが一緒に歩きながらいろんな事を教えてくれました。雨で大変でしたが、自分のメモをもとに俳句を作り、みんなとてもいい句を作っていました。 七海

七海

秋の雨紅葉の葉からつゆ落ちる

一番びっくりしたことは、何気なく木にまきついていたツタが、秋の季語だということ。棚田はいろいろな形があり、それが段になっていて面白いなあと思いました。 麗親

麗親

もみじの葉雨のなみだを受けてまう

このさきさんがおしえてくれた一番たいせつなことは自分がおもしろい、きもちいいなど感じたことをなんでもはいい句にすることです。 桃子

桃子

たでの花せが大きいなあこがれる

吟行とは、外に出て、いろんなものを見たりふれたりして俳句をつくることです。今回、おぼすかかこう会館から、長楽寺をまわり棚田も見ました。 秋ぐもや、何かのよう虫、イネをかった後の田んぼ、赤まんま、たでの花、のぎく、赤もみじ、なす、だいこんなどの野菜。ふだんなにげなく見ているものが俳句のき語になり、大事な役わりになるということを、神野先生に教えてもらいました。 彩音

彩音

雨の中紅葉が赤く光ってた

句会は少しくわくわくします。プロも同じ風になやっていると神野さんは話してくれました。句会の楽しさや俳句のルールを知り、俳句の世界に少し近づけた気がしました。 志帆

志帆

柿の葉が「わたしはおばけ」と言っていた

見つけた柿の葉ははんでんがいつぱいで怖くなり、私はそれで句を作りました。自分の句に点を入れてくれた人がいてとってもうれしかったです。 穂杏

穂杏

あきの雨音がポツポツいい音だ

今日、はいくがうまくつくれるかしんばいでした。でもはいくに点数はないと言われたので、あんしんしました。 ぼくは、はいくのつくり方を教わって、二つのことにちゅういしてつくりました。まず、き語をかならずいれなくてはいけないので、ぼくは「あきの雨」をつかいました。二つ目は、NGワードの「きれいだなあ」とか「うれしかった」はつかわないように言われまし。むずかしいと思っていたはくも、つくることができました。 はいくをつくるのがたのしくなりました。 麗瑛

麗瑛

あきの雨ぐみの実まつかおこりんぼう

吟行は、はいくを作るために外に出ていんなものを見たりふれたりすることです。やってみて、はいくを作るのはむずかしくて大変だと思いました。 広章

広章

しづがきは形や色がちがいます

おばあちゃんが俳句をやっています。私は庭のことを俳句にしてみました。私にはお寺や里山も吟行してみたいです。 香乃

香乃

秋の雨もつとふるかとふり続く

みんなの俳句がよくて感動しました。初めて句会をやってみたけれど、俳句を作る人もこういうふうになるんだなとわかりました。 峻真

峻真

雨の中ススキいろくかがやいて

句会名前をかくした状態でみんなの俳句をみて、好きな句を入れます。ぼくの俳句は、1票ももらえなかったけれど、自分なりにうまくなってきたなと思いました。 裕紀

裕紀

秋の雨もつとふるかとふり続く

句会名前をかくした状態でみんなの俳句をみて、好きな句を入れます。ぼくの俳句は、1票ももらえなかったけれど、自分なりにうまくなってきたなと思いました。 裕紀

裕紀



至貴の俳句と紗希さんのコメントが11月5日の紙面にのってるよ！

みんなも俳句ができたなら、りきさくコーナーにぜひ送ってね。

(横木尚)